



橋 戸

令和4年1月8日
学校だより 第9号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

年の始めに“願う”こと…

校長 青木 俊哉

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの話題が出始めてから、そろそろ丸2年になります。コロナ禍の年末年始も二度目となり、感染状況を気にしつつ、ご家庭で、ご家族で過ごす時間を工夫しながらの年越しではなかったかと想像しております。まだしばらくは厳しい状況が続きそうですが、一日も早く落ち着いた日々、平穏な時間が戻ることを願う毎日です。

「よい年に“なる”と願うのではなく、よい年に“する”ように自分から動こう。」1年前の始業式で、子供たちにこんな話をしたことを思い出しました。“なる”と“する”では大違い。二つの言葉を基に、物事を自分事として捉え、自らの意思ですすんで動く、行動変容を促す話でした。その2週間前、2学期の終業式では、当時の6年生が取り組んだSDGs橋戸小の6つの提案(男女仲良くする。給食を残さない。電気を大切に。水を大切に。ごみを少なくする。勉強を頑張る。)を振り返り、他学年の子供たちに「この目標に“プラスワン”、7つ目の目標を考えてほしい。校長先生からみんなへの宿題です。」と投げかけたところ、3学期始め5年生からたくさんの言葉(目標)が届きました。「言葉に責任をもつ。差別をなくそう。挨拶をしよう。何事も楽しもう。地球を大切に、地球は自分。紙を大切に、紙は木からできている、木がなくなるとは困る。運動をしよう。友達の体、自分の体を大切にしよう。」など、スペースの関係ですべてを紹介することはできませんが、人権、生活習慣、環境、健康など、様々な視点で“持続可能な社会の実現に向けて”自分たちが取り組めることを考えてくれました。これは、まさにSDGsの原点であり、前向きに、プラスワンの発想で取り組めると確信した記憶があります。それから1年、最上級生となった6年生が、これらの目標にどう意識して取り組んだか、この1年を自分たちでどう振り返るか…、直接彼らに聞いた訳ではありませんが、ひと月前に1泊2日で出かけた下田移動教室に向けての準備や事前学習などの取組、現地での過ごし方からは、間違いなく目標に向けて取り組み、成果を上げてきたことが実感できました。昨年の6年から今年の6年へとつながった“目標や取組のバトン”が、今度は次の6年、つまり今の5年生に受け継がれ、さらにまたその翌年は…とつながっていくことを期待しています。こういった日常の取組こそが、学校の伝統の礎になると思っています。

さて、今年寅年、“壬寅(みずのえとら)”です。壬には“生まれる”の意味が、寅には“人の前に立つ・成長する”の意味があり、“新しく立ち上がる・生まれたものが成長する”縁起のよい年といわれています。芽吹き、始動、成長、変容…こんなことを願いつつ、厳しい状況下での新しい年を、気持ちよくスタートさせたいと思います。

卒業まで77日、登校日は今日を含めて5・6年生が53日、1～4年生は52日、今年度を締めくくる3学期が始まりました。改めて、“物事を自分事として、ポジティブに、前向きに捉え、自分で考え、自分から行動する(できる)こと”を願い、そんな子供たちに育つことを念頭に置き、日々の教育活動にあたります。学校も、願うだけではなく、実行するよう心がけてまいります。保護者、地域の皆様には、引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。